

KANDAI PSYCHOLOGICAL REVIEW

Vol. 3 March 2009

Contents

Original articles

Masashi Kushizaki

An Introduction to Mutual Collage Watchword Technique (1)

Chikako Maeda

Requirements for Studying Vocational Identity Formation of Profession (5)

Azusa Fujiwara

Effects of Modality and Mode of Information Presentation on Understanding:
An Examination of Answered Substances (15)

Kyoko Saio

Lesson Design and Practice for Collaborative and Autonomous Learning
~Team Based Learning in High School "Hours for Comprehensive Studies"~ ... (23)

Yoshinori Yamada

Examination to Learning on the Seminar Activity: Seminar Activity Based on Legitimate
Peripheral Participation (35)

Tomoko Kitano

How we recognize 'Errors' made by students learning Japanese as a Second Language. :
From the view point of Symbiotic Learning (45)

Naoki Haratani

The Multiplicity of Response in Psychotherapy (55)

Reports

Summaries of Master Theses, 2007 (61)

Titles of Graduation Theses, 2008 (71)

Information

THE SOCIETY FOR PSYCHOLOGICAL STUDIES
DEPARTMENT OF HUMANITIES
KANSAI UNIVERSITY

Osaka Japan

文学部心理学論集

第3号 2009年3月

原著論文

相互コラージュ・ウォッチワード・テクニックの試み (1)
申崎真志

専門家の職業的アイデンティティ形成の研究に必要な視点 (5)
前田智香子

理解に及ぼす情報呈示モダリティと情報の種類の効果
—回答内容の分析からの検討— (15)
藤原梓

協調自律学習による授業デザインと実践
—高等学校「総合的な学習の時間」におけるチーム学習— (23)
齊尾恭子

ゼミ活動における学びを探る視点とその有効性
—正統的周辺参加論に基づくゼミ活動に着目して— (35)
山田嘉徳

留学生の日本語学習における「エラー」の捉え方：共生的学習の観点から (45)
北野朋子

心理療法における応答の多層性 (55)
原谷直樹

資料

平成19年度修士論文要旨 (61)

平成20年度心理学専修第39回卒業論文題目 (71)

彙報

文学部心理学論集

第三号

二〇〇九年

関西大学文学部心理学会

関西大学 文学部 心理学会

文学部心理学会第3回研究大会・総会 報告

平成21年1月24日（土）、関西大学尚文館501教室において文学部心理学会第3回研究大会が開催されました。本年の研究大会では、2006年度より関西大学へ赴任され、文学部心理学専修において教育・研究をされている加戸陽子先生による発達障害特性の理解と支援について、講演がありました。

文学部心理学専修学生、心理学研究科・文学研究科大学院生、本学名誉教授、卒業生、学部学生、他大学等より、36名の参加をいただき盛会のうち終了することができました。また、総会では、平成20年度会計報告が承認されました。来年度の研究大会も同様の形式で進めたいと考えております。会員の皆様のご参加をお待ちしています。



加戸陽子先生



講演風景

プログラム

開会の挨拶 学会長 田中俊也

講演 関西大学文学部 専任講師 加戸 陽子氏

演題「発達障害特性の理解と支援」

総会

懇親会

関西大学文学部心理学会 2007年度 会計報告

2007年4月1日～2008年3月31日

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前年度よりの繰越金	91,289	学会・懇親会費	80,345
学会費会費 ※1	510,000	通信費	21,340
懇親会会費	0	文学部心理学論集印刷費	394,150
文学部心理学論集抜き刷り代 (執筆者負担分)	0	事務消耗品費	5,111
		人件費	3,600
預金利息	819	次年度繰越金 ※2	97,562
	602,108		602,108

(単位：円)

<内訳>

※1

<新2年次生>

37名×12,000円=444,000円

<学外会員>

14名×3,000円=42,000円

<専任スタッフ>

8名×3,000円=24,000円

510,000円

※2

りそな銀行 現金

(69,635円 + 27,927円)

=97,562円

会計監査 金敷大之 (畿央大学健康科学部講師・関西大学非常勤講師)

スタッフの活動 (2008年4月～2009年3月)

池見 陽

【教育研究活動】

<書評>

Ikemi, A. Focusing- Oriented Therapy (FOT)
: A contribution to the practice, teaching
and understanding of focusing-oriented
therapy. Neil Friedman Person-Centered
and Experiential Psychotherapies Vol.7(2):
147-149

<報告書>

Ikemi, A. Experiential Collage Work 平成19年
度 文部科学賞学術フロンティア研究成果報
告書 pp.115-136.

<学会発表等>

Ikemi, A., Thinking into Focusing: Two Cases
Paper presented at the 20th Focusing International
Conference, Bromont, Canada

Yano, K., Miyake, M., Ikemi, A. Experiential
Collage Work Paper presented at the 20th
Focusing International Conference, Bromont,
Canada

三上智子、弥園祐子、玉木登志江、池見 陽
フォーカシング的発想に基づいたメンタルヘ
ルス研修の効果：FMSを用いて 日本人間
性心理学会第27回大会 8月2日 関西大学
弥園祐子、三上智子、玉木登志江、池見 陽
自己調整法を取り入れたメンタルヘルス研修
の効果：自己との関係を促す

第31回日本自律訓練学会大会 9月27日 関西
大学

<その他>

Ikemi, A. Listening, Focusing and Translating
The Focusing Connection Vol.XXV Number
6

三宅麻希、矢野キエ、池見 陽 Experiential

Collage Work (体験過程流コラージュワー
ク) 日本人間性心理学会第27回大会ワークシ
ョップ

【学内外の活動】

日本自律訓練学会 第31回大会 大会会長
日本人間性心理学会 常任理事
The 21st Focusing International Conference
実行委員長
Certifying Coordinator, The Focusing Institute
財団法人 日本心身医学協会 理事
Person-Centered and Experiential Psychotherapy
編集委員
心理臨床の広場 (日本心理臨床学会) 編集委員
その他

加戸 陽子

【教育研究活動】

<論文>

発達障害の疫学および病態生理に関する研究動
向 (共著)
発達障害研究 (2008) 30(4), 227-238.

<著書>

発達障害をともなう子どもへの神経心理学的検
査 2008年1月 関西大学出版部

<その他>

日本発達障害学会第43回研究大会 『注意欠陥/
多動性障害および広汎性発達障害における
WISC-IIIのプロフィール比較』 明治学院大学
8.3

日本発達障害学会第43回研究大会 『発達障害
におけるストループ干渉効果に関する検討ー
干渉効果の年齢比較』 明治学院大学 8.3

教職員カウンセリング研修会 『カウンセリ
ング事例研究会』

神戸女学院中学部・高等学部 2.29

阿武野中学校特別支援教育校内研究会『発達障害のそれぞれの特性と、適した支援の方法例』高槻市立阿武野中学校阿武野中学校 8.26

【学内外の活動等】

<学内>

人権問題研究室研究員

<学外>

- ・ 岡山大学病院小児神経科 心理検査士
- ・ 大野小児科医院 心理検査士

<所属学会>

日本小児科学会
日本特殊教育学会
日本発達障害学会
日本小児神経学会

申崎真志

【教育研究活動】

<著書>

1. 「日本文化の人類学/異文化の民俗学」(小松和彦還暦記念論集刊行会編、分担執筆)、2008年7月、法蔵館、全784頁
2. 「成人のアタッチメント：理論・研究・臨床」(W. スティーヴン・ロールズ、ジェフリー・A. シンプソン編、遠藤利彦・谷口弘一・金政祐司・申崎真志監訳)、2008年3月、北大路書房、全468頁
3. 「親密な関係のダークサイド」(B. H. スピッツバーグ、W. R. キューバック編 谷口弘一・加藤司監訳、分担訳)、2008年10月、北大路書房 全284頁

<論文>

1. 「地域実践心理学ケースカンファレンスの試み」(永井知子・酒井隆と共著)『平成19年度文部科学省学術フロンティア研究成果報告書』(関西大学大学院社会学研究科)
2. 「アタッチメントから見た事例の理解」(永井知子・酒井隆と共著)『関西大学文学部心

理学論集』(関西大学文学部心理学専修)、第2号、1-5.

3. 「思い出の捉え方と心理的適応の関連」(中村隆行と共著)『関西大学文学部心理学論集』(関西大学文学部心理学専修)、第2号、45-51.

<学会発表>

1. 「コラージュを用いた相互ウォッチワード・テクニック」日本人間性心理学会第27回大会(関西大学)個人ポスター発表

<その他>

1. 「受験や成績だけに価値を感じている子へのかかわり」『児童心理』、2008年7月号、69-73、金子書房

<ゼミ活動>

3年次の「心理学演習」(14名)、4年次の「卒業演習」(14名)を担当。

【学内外の活動】

<学内>

心理学専修代表、人権問題研究室研究員、視覚教室運営委員

<学外>

1. 福井県総合福祉相談所・講師(スーパーバイザー)
2. 京都家庭裁判所家事調停委員カウンセリング講座・講師
3. 大阪府こころの健康総合センターリハビリテーション課・講師
4. 摂津市家庭児童相談室・家庭相談員

菅村玄二

【教育研究活動】

<著書>

1. 「認知行動療法と構成主義心理療法：理論、研究そして実践」(マイケル・J・マホーニー編、根建金男・勝倉りえこと監訳)、2008年11月、金剛出版、全248頁

<学会発表>

1. 「心理療法におけるスピリチュアリティの位置づけの試み：親鸞の思想を契機にして」日本人間性心理学会第27回大会，2008年8月，関西大学。（単独，ポスター発表）
2. Expanded and upright postures can reduce depressive mood. Poster session presented at the 29th International Congress of Psychology, Berlin, Germany, July, 2008. (Coauthored with Hiroki Takase, Yutaka Haruki, and Fusako Koshikawa)
3. How can Japanese-specific positive automatic thoughts predict future depressive states? Poster session presented at the 29th International Congress of Psychology, Berlin, Germany, July, 2008. (Coauthored with Satoko Shiraishi and Fusako Koshikawa)
4. Subjective evaluations of the depression coping and preventing program based upon cognitive therapy. Poster session presented at the 2nd Asian Cognitive Behaviour Therapy Conference, Bangkok, Thailand, October, 2008. (Coauthored with Satoko Shiraishi and Fusako Koshikawa)

<その他>

1. Funkkolleg Psychologie: Wie wir fühlen Von Ulfried Geuter. 8. November 2008, 9:25 Uhr, hr2-kultur. (Redaktion: Volker Bernius, Regina Oehler, Karl-Heinz Wellmann)

<競争的研究資金の獲得状況>

1. 平成20年度科学研究費補助金（若手研究・スタートアップ）1,703,000円（内，間接経費：393,000円）
研究課題名：自律神経系及び中枢神経系活動にみる姿勢の対自機能（課題番号：20830123）

【学内外の活動】

<学内>

1. 心理学専修代表補佐

<学外>

1. 日本人間性心理学会第27回大会（準備委員）
2. Society for Constructivism in the Human Sciences (Director-General of the Secretariat)
3. Transcultural Society for Clinical Meditation (Award Selection Committee member)

田中俊也

【教育研究活動】

<著書・辞典>

田中俊也「熟達者と初学者」多鹿秀継（編著）『学習心理学の最先端：学びのしくみを科学する』（あいり出版,2008年5月）第11章（Pp.122-133）.

田中俊也「概念獲得と概念変化」平木典子・稲垣佳世子・斉藤こずゑ・高橋恵子・氏家達夫・湯川良三（編）『児童心理学の進歩2008年版（Vol.47）』（金子書房,2008年6月）第2章（Pp.27-56）.

<論文・報告書>

田中俊也・秋田知洋・中村康高・前田智香子・高吉幸治・藤原梓 2008年3月「『分かる』授業の探求」文学部心理学論集,第2号, 7-16.

Tanaka, T., Yamada, Y., & Oshie, T. (in press) . 「Assessing the Effect of 12 Successive Lectures on “Peer Supporting”」 Monograph #52 (University of South Carolina)

<学会発表>

田中俊也・岩崎千晶・齊尾恭子 2008年9月「教員の持つ教科認識,教え・学びの哲学とICT活用形態の関係」私立大学情報教育協会平成20年度教育改革IT戦略大会発表論文集, 70-71.

藤原 梓・高吉幸治・田中俊也 2008年10月「課題理解に及ぼす情報提示モダリティの効果」日本教育心理学会第50回総会発表論文集, 288.

山田嘉徳・田中俊也 2008年10月「学びのトラ
ジェクトリーー正統的周辺参加論に基づいた
ゼミ活動への参加過程ー」日本教育心理学会
第50回総会発表論文集, 783.

<ゼミ活動他>

ゼミは例年通り, 2回(夏:六甲山荘, 冬:
飛鳥文化研究所)のゼミ合宿を通して3, 4
回生のつながりを深め, 4回生は無事全員卒
論を書き上げた。今年は院生が1人, 参与観
察の形で時折参加し, 後輩の面倒を見てくれ
るとともに自分の研究データとしても面接・
調査等を行うという互恵的關係を持った。
ゼミ以外では, 学生支援GPに採択された「広
がれ! 学生自立型ピア・コミュニティ~関西
大学で育む21世紀型学生気質~」の活動の一
環である正課授業「関西大学におけるピアサ
ポートを考える」のコーディネーター・授業
担当責任者として参与し, 夏にはピア・リー
ダーの養成プログラムがうまく動いているア
メリカ・サウスカロライナ大学に2度目の訪
問をした。

<講演・その他>

「おもしろ心理学ゼミナール」(関大1セミナ
ー)では, 以前でかけた同じ高校からの依頼
(高槻北高校: 1月24日, 奈良市立一条高
校: 11月10日)を含め, 京都府立向陽高校
(6月21日), 浜松・開誠館高校(11月15日)
で話をした。向陽高校では新聞社(京都新
聞)の取材があり6月22日版に写真入で大き
く取り上げられたが「文学部教授・田中俊
成」とあり, ガクッときた。珍しい誤記であ
る。

【学内外の活動】

<学内>

大学院心理学研究科科長。文学部総合計画会
議委員。関西大学教えと学び連環室主幹。

<学外>

日本教育心理学会第6回優秀論文賞選考委員

会委員。伊丹市学校教育審議会会長。神戸市
教育委員会「分かる」授業推進事業プロジェ
クトメンバー。日本学校カウンセリング学会
『学校カウンセリング研究』編集委員。日本
赤ちゃん学会評議員。認定心理士会評議員。
学校心理士。認定心理士。

中田行重

【教育研究活動】

<論文>

1. 教育現場への学生ボランティアの活用ー
成功事例からの考察ー平成19年度文部科学
省学術フロンティア研究成果報告書(関西大
学大学院社会学研究科)、87-100
2. Non European Perspective 関西大学心理
相談室紀要10号、51-60

<著書>

1. A Japanese Perspective (Sheila Haugh
and Stephen Paul eds., [The Therapeutic
Relationship: Perspective and Themes]
PCCS Books, Ross-on-Wye, UK. 2008,
156-167)

<学会発表>

1. Yukishige Nakata & Takashi Oshie. Reli-
gious influence on Japanese Self, and Group
Facilitator's Genuineness, World Association
of Person Centered and Experiential Psy-
chotherapy and Counseling, (PCE2008), 9
July, University of East Anglia, Norwich,
England
2. Takashi Oshie & Yukishige Nakata. Review
on Outcome Research on Encounter Group
in Japan, World Association of Person Centered
and Experiential Psychotherapy and Counseling,
(PCE2008), 10 July, University of East Anglia,
Norwich, England
3. Cultural Influence on Relatedness (First
presentation of the Symposium "Cross-

cultural analysis of Person-centered Approach in Japan), the 5th World Congress for Psychotherapy, 12 October, Olympic Sports Center Stadium, Beijing China

4. 大会企画X (日本人間性心理学会第27回大会) 企画&進行

【学内外の活動】

1. 心理臨床カウンセリングルーム室長
2. 文部科学省学術フロンティア研究分担者
3. 日本人間性心理学会常任理事
4. Person-Centered and Experiential Psychotherapies (The Journal of the World Association for Person-Centered and Experiential Psychotherapy and Counseling), Board & Associate Editor

野村幸正

学生の声に耳を傾けながら、また自分の生の声で学生に話しかけながら、「心理学」を媒体にして、教え—学ぶ関係の奥にあるものを模索している。

比留間太白

【教育研究活動】

<著書>

2008. 3 心理学研究法 新訂 放送大学教育振興会 (6章「行動から心を探る—観察法一般」、7章「現場から心を探る—エスノメソドロジーとグラウンディッド・セオリー」、8章「協働から心を探る—教育的介入法」を担当執筆)

<論文>

2008. 3 日本の学校文化において創造的協働活動を創出するための活動システムの開発, CHAT Technical Reports No.7, 63~74.

<国際会議>

2008. 3 Thinking together and work together: An educational intervention research proj-

ect. Paper presented at the First Asian Conference on Activity Theory and Vygotskian Research. Shanghai, China, 9-10, March.

2008. 9 Chasing the co-development of collaboration among children, teachers, and researchers. Paper presented at the 2nd ISCAR congress. San Diego, USA., 9-13 Sep.

2008. 9 Discourse in a collaborative learning activity. Poster presented at the 2nd ISCAR congress. San Diego, USA., 9-13 Sep.

【学内外の活動】

<学内>

関西大学人間活動理論研究センター研究員

<社会的活動>

「テクニカル・ライターの会」企画・運営委員

松村暢隆

【教育研究活動】

<著書>

『本当の「才能」見つけて育てよう』. ミネルヴァ書房. 2008年6月.

<科研費研究>

「理科授業で学習困難と才能を示す中学生への特別支援の方策に関する研究」(研究代表者).

<一般向けウェブ記事>

「「苦手」を「得意」で克服する「才能教育」. ベネッセ教育開発研究所. 2008年12月.

【学内外の活動】

アメリカ教育学会理事.

- 講演: 「シンポジウム・特別支援教育の可能性をめぐって—才能教育から見た可能性」. 名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター. 2008年8月.

執筆者紹介（執筆順）

申崎 真志	関西大学文学部心理学専修准教授
前田智香子	関西大学大学院心理学研究科博士課程後期課程心理学専攻
藤原 梓	関西大学大学院文学研究科博士課程前期課程認知・発達心理学専修
齊尾 恭子	関西大学大学院心理学研究科博士課程前期課程認知・発達心理学専攻
山田 嘉徳	関西大学大学院心理学研究科博士課程前期課程認知・発達心理学専攻
北野 朋子	関西大学文学部非常勤講師
原谷 直樹	大阪府立子どもライフサポートセンター

(非売品)

文学部心理学論集 第3号

2009年3月16日 印刷

2009年3月31日 発行

編集兼発行者 関西大学文学部心理学会

会長 田中俊也

印刷 株式会社 廣 濟 堂

文学部心理学論集 編集・投稿規程

1. 本誌は関西大学文学部心理学会の機関誌であって、年1回発行される。
2. 本誌は編集委員会の責任のもとに編集される。
3. 編集委員会は、関西大学文学部総合人文学科心理学専修の専任教員から構成される。
4. 本誌には、原著、書評、彙報の欄を設ける。編集委員会の判断でその他の欄を設けることもできる。
5. 本誌に投稿を希望する者は、以下の各項（投稿規程）を遵守すること。
 - ① 投稿は、学会員に限る。なお、特集論文については編集委員会の判断による。
 - ② 掲載の順序、分類は編集委員会が決定する。
 - ③ 論文は未発表のものに限る（学会での口頭発表、ポスター発表、研究会等での発表を除く）。
 - ④ 論文の長さは原則として本誌仕上がり10ページ以内（15,960字。タイトル、文献、図表等すべて含む）とする。編集委員会が特に認めたものについてはこの限りではない。
 - ⑤ 原著論文の構成および表記は、日本心理学会等の学会誌で規定された「投稿の手引き」に準拠したものに限る。
 - ⑥ 当該年度に掲載を希望する投稿原稿は電子的に記録したものに、出力された原稿2部を添えて、当該年度の11月10日までに編集委員会に提出する。
 - ⑦ 投稿論文は編集委員会によって審査され、掲載の可否が決定され、本人に通知される。編集委員会から修正等を要求することもあり得る。
 - ⑧ 論文印刷に関して特に費用を要する分は執筆者の負担とする。
 - ⑨ 執筆者には論文抜き刷り20部を贈呈する。それ以上は執筆者の負担とする。
6. 本誌に掲載された論文の原稿は原則として返却しない。
7. 本誌に掲載された論文を無断で複製及び転載することを禁ずる。
8. 編集委員会の事務局を心理学専修合同研究室におく。

以上

2006年9月1日制定

2008年2月22日改訂

関西大学大学院心理学研究科 研究・教育倫理綱領

2008年10月15日施行

関西大学大学院心理学研究科構成員（専任教育職員、大学院博士課程（前期・後期）及び専門職課程大学院生、大学院研究生）は、すべての人間の基本的な権利を認め、これを侵さず、人間の自由と幸福の追求の営みを尊重し、また、人間以外の動物についてもその福祉と保護に留意し、心理学における学術的活動とそれに関連する諸活動にたずさわらぬ。このため、関西大学大学院心理学研究科構成員は、心理学の専門家としての自覚を持ち、自らの行為に対する責任を持たなければならない。そして他者がこのような規準を侵したり、また自らの行為が他者によって悪用されることを黙認してはならない。

以上の主旨にもとづき以下の条項を定める。

1. 責任の自覚

関西大学大学院心理学研究科構成員は自らの研究・実践活動が個人や社会に対して影響のあることを自覚し、自らの活動は個人の幸福と福祉及び社会への貢献をめざしたものでなければならない。そのためには常に自己研鑽につとめ、資質と技能の向上を怠らねばならない。

2. 人権の尊重

関西大学大学院心理学研究科構成員は研究・実践活動の対象となる他者や動物に対して、常にその尊厳を尊重しなければならない。

- 1) 個人のプライバシーや社会的規範を侵す行為をしてはならない。
- 2) 精神的・身体的危害を加えることをしてはならない。
- 3) 動物研究に関しては、動物が人間の共存者としての認識をもち、適切な生育環境を確保しなければならない。

3. 説明と同意

実験、調査、検査、臨床活動などを行うとき、その協力者に十分な説明をし文書又は口頭で同意を得なければならない。

- 1) あらかじめ説明を行うことができない場合には、事後に必ず十分な説明をしなければならない。
- 2) 協力者が判断できない場合には、協力者に代わり得る責任のある者の判断と同意を得なければならない。
- 3) 協力者の意志で参加を途中で中断あるいは放棄できることを事前に説明しなければならない。
- 4) 事前に与えた情報で協力者が行動したにもかかわらず、その情報はにせの情報であったような手順でしかその研究が成立せず、かつ、科学的・教育的その他の意義でどうしても必要であると考えざるを得ない場合をのぞいて、そうした研究は行うべきではない。
- 5) 事前に与えた情報で協力者が行動したにもかかわらず、その情報はにせの情報であった場合は、

できるだけ早く研究協力者に説明をしなければならない。その研究の実験が行われた終了時が望ましいが、遅くともその研究の終結までには行わねばならない。

- 6) 事前に与えた情報で協力者が行動したにもかかわらず、その情報はにせの情報であった場合の研究で協力者に精神的ダメージを与えた場合、その回復に全力を注がねばならない。

4. 情報の管理

関西大学大学院心理学研究科構成員は得られた情報については厳重に管理し、みだりに他に漏らしてはならない。また情報は、本来の目的以外に使用してはならない。

5. 公表に伴う責任

公表に際しては、専門家としての責任を自覚して行わねばならない。

- 1) 個人のプライバシーを侵害してはならない。特に個人情報の取り扱いには最大限の配慮をせねばならない。
- 2) 研究のために用いた資料等については出典を明記せねばならない。
- 3) 共同研究の場合、公表する際には共同研究者の権利と責任を配慮せねばならない。
- 4) 公的発言・広告・宣伝などで、社会に向けて公表する場合には、心理学的根拠にもとづいて行い、虚偽や誇張のないようにせねばならない。

6. 附則

関西大学大学院心理学研究科心理臨床学専攻（専門職学位課程）については、別途倫理綱領を定めるものとする。

<解説>

関西大学における心理学研究は、大学院レベルでは2008年4月から心理学研究科がたちあがり、これまでの文学研究科の心理学と社会学研究科の心理学が同じ研究科の中で研究活動を行うようになりました。

それに伴って、心理学研究・教育上の倫理規定を策定し、上記の倫理綱領として施行されています。

今後、心理学研究科の構成員（教員、院生、研究生）等が本「文学部心理学論集」に投稿するに際し、本学会としてもこの綱領を踏襲するものとして、以下の「編集・投稿規程」に加えて紹介します。十分に参照され、ますますの研究活動を期待いたします。また、学部での研究活動においても本綱領が生かされることを望みます。

(2009年1月 文学部心理学会 会長 田中俊也)